

平成30年度 第1回健康福祉審議会 議事録

日 時：平成30年6月1日（金） 13：30～15：30

場 所：市民会館2階 第2会議室

出席者：別紙のとおり

委員定数の過半数に達しているので会議は成立していることを報告する。

1. 開会

2. 委員の委嘱

委員、職員の紹介
委嘱

3. 開会の挨拶

高川部長挨拶

4. 健康福祉審議会と役員選出

本審議会の会長の選任

- ・加賀市社会福祉協議会
会長 上出(かみで)正司(まさし) 氏を選出

本審議会の副会長の選任

- ・一般社団法人加賀市医師会
会長 河村(かわむら) 勲(いさお) 氏を選出

5. 議題

- (1)健康福祉審議会及び各分科会について
- (2)各分科会に属すべき健康福祉審議会委員について
- (3)各分科会委員の推薦について
- (4)諮問事項について
- (5)健康福祉審議会について
 - ①計画の評価及び平成30年度の施策について
 - ②自殺対策計画の策定について
- (6)各分科会における計画の評価及び平成30年度の施策について
 - ①高齢者分科会
 - ②障害者分科会
 - ③こども分科会
 - ④健康分科会

以下、審議事項の説明は、別紙資料のとおりとし、質疑のみの記載とする。

質疑事項

1 健康福祉審議会について①計画の評価及び平成30年度の施策について

村上委員

21ページ記載の資料等リーフレット3部は、具体的にどれが該当するのか。

平井課長

別冊資料の12ページから15ページまでが該当、まるごとワークのオープンの時に作成した資料が12ページに、企業の登録募集が13ページに、15ページは「ひとりで悩まず話してください」ということで、就業されていない方向けのチラシのことである。

上野委員

20ページ掲載の学習支援事業のデータは、市民会館で行っているもののデータか。

西出参事

この件につきましては、NPO法人に委託をしている事業に関するデータである。

西出参事

教育委員会で行っているものは主に勉強能力を高めるのが主旨であり、学習支援事業は、勉強への動機付けをすることを主体に行っており、質問の事業とは異なる。

上野委員

学習支援事業は、何箇所で行っているのか。

西出参事

29年度は、片山津地区・動橋地区・山中地区・山代地区で実施し、通年開催できたところは山代地区だけである。教員のOBの方とか学生ボランティアをお願いしているが、なかなか集められないのが現状であり、確実に実施できる地区に重点を置いて、30年度は、地区を絞って行こうと考えており、ご理解をお願いさせていただきたいと考えている。

上野委員

学習支援事業は、困窮家庭が対象であろうと思うが、各地域の例えば公民館、集会所でそのような事業、支援をしていただければ、非常にありがたいと思う。というのは、困窮家庭の子ども、また他の子ども達もほとんど送迎を多分車で行っていると思われるが、子ども達がカバンを持って走ってでも行ける、自転車に乗ってでも行けるような場所等で、行っていただければ、もっと効率が上がって来るのではないかと思う。

他の会議の中でも言っているが、是非そのようになるようにしていただければと思う。それによって、高校へ進学していただいたり、貧困の連鎖を止める一つの方法になるのではと思っている。

高川部長

学習支援事業は、当初は、山代、片山津、大聖寺地区の3箇所で行っていた。29年度については通年で実施できたのは、山代地区のみであった。

なぜ山代地区だけなのかというのは、教える側であるスタッフ側の体制がうまく取れないのが

現実である。山代地区については、その地域の協力が得られて継続ができています。片山津地区の方ではそれがなかなか難しかった。大聖寺地区は、社会福祉協議会に依頼したが、その辺が難しいということで、今後多くの地区で行っていきたいという思いがあるので、地域の方の協力をお願いしながら進めて行きたいと考えています。

上野委員

社協の方でも事業を行っているので、横の連携を取りながら、例えば教職員のOBの方をお願いして本当に地域の中で教えていただければ非常にありがたいと思う。

上野委員

安心メールについてであるが、他の会議でも言っているが、メールを受信した時に大まかなことしか書いていないメールの文書であるということと併せて、やはり探すという状況に陥っている時には、やはり氏名とか町名なども表記していただいた方がより効率的に捜せるのではないかなと思う。ただ個人情報という問題が多分出てくるから大変かなと思うが。やはり捜さないといけないという状態の時には、ある程度個人情報もハードルを下げるということも当然当事者は考えていただかないと、協力がなかなか得られないのではないかなとは思っている。前の何かの会議の中で言うておりますが、改めて言わせていただいた。

平井課長

安心メール事業については、先程も説明したように、メール配信ということで、こちらから送りっぱなしということになるため、仮に発見された場合にも受け取った側の端末とか携帯には情報がずっと残ることになる。例えば写真を載せたり住所名前まで書けば、一番良いことなんだと思う。もしご家族の方の了解があれば名前を出すとかそういうことも課題ということで考えていきたい。現在のメールの中身については、何才ぐらい、男性、どんな格好しているか、どの町で居なくなったかそこまでしか出していない状況である。

上野委員

我々民生委員の活動の中でそのようなメールが入ると色々に関心を持って見るが、やはり民生委員の活動の中で、例えば夏休みの場合など、町例えば車を運転して走っている時でも常に関心を持って、「あれ、なぜこんな所にあの子が居るんだろうな、あそこおじいちゃんおばあちゃんが家に帰らなければならない時間なのに反対方向に向かっている」という関心を持って、おかしい時は声を掛けるように、また、掛けたほうがいいのではないかなと言っている。そのように我々民生委員も努力しているわけで、ある程度もう少しちょっとだけ、顔まで出さなくていいので、名前もしくは町名くらいは、掲載しても問題はないのではないかなと思っている。

平井課長

課題でということでは捉えさせていただきたい。

村上委員

先程のリーフレットの資料を見せていただいたが、就労支援カレッジ事業自体のリーフレットに該当していないように思える。その点例えば自治体に問合せ窓口といったリーフレット等を送ってどんな人が来たのか、少し教えていただけますか。というのも、なぜ、就労者ゼロだったのかをきちんと分析しないといけないと思うので、そういった点から回答を依頼する。

平井課長

この就労支援カレッジのチラシは添付していない。就労支援カレッジというものは都会の方で就労に課題のある方を、豊中の方では農業法人とかがそこで起業させたりしている。そういう方を加賀市と弘前市の方での農業体験を通じて定着して起業できるようなことになればということで取り組んでいる。

加賀市では現在のところ奥谷梨園で作業体験を、昨年の春先から行っているが、田舎の方で農業するに当たって、梨では季節が決まっており、梨だけで生計を維持することがなかなかむづかしいので、今のところ移住して梨園を起業するかということには繋がっていない。今後梨だけではなくて梨以外の時に違う仕事につけるような形を模索しながら、一人でも移住できるような形を検討していきたいと考えている。

村上委員

もう一つの観光分野の方はこういったことをやっているのか。

西出参事

観光分野の方は大阪のNPO 法人の方から送り込んでいただいて、旅館の体験接待さんとかあとシングルマザーの方に体験に来ていただいて、受入れられないかと定着できないかということをやったのですが、たまたまゼロだったということでございます。

②自殺対策計画の策定について

村上委員

1点、自殺者の現状について世帯構造、たとえば一人暮らしなのか、他の人と暮らしていたのかというような情報があるのなら、これも現状の部分に組み込んだ方がいいのではないかなと思うが。

北口課長

本日は、現状の数字を紹介させていただいた。この計画を策定するプロセスによって、今程村上委員よりご意見をいただいた構成であったり、背景・要因であったりということ进行分析をさせていただき、次の素案で掲載させていただきたいと思っている。

上野委員

自殺というのは何か原因があるはずであり、また、ケースによって個々に原因とか要因が、個性があると思う。それについて把握していないのか、またそうしないと対策が立てられないと思う。

北口課長

自殺に追い込まれる背景のプロセスとしては4つぐらいの背景・要因が重なっているのではないかとされているが、その中では一番多いのは健康問題というような大きなくくりでの統計は出ているが、そのようなところにも個別の状況等も確認しながら、その健康問題が精神的なものなのか身体的なものなのかとまでは、現状では分かり得ていないところがあると考えている。

山村委員

自殺未遂の統計は出ていないと思われるが、例えば医療機関で命が助かった方とかは市との連携があるということで、数値が市に上がってくるのか。

北口課長

先程も示させていただいたが、庁内外の連絡の機会として、加賀市の医療センターや加賀こころの病院とも連絡会等をさせていただいている。そういった病院では、今程委員が話しされたような自殺未遂者が救急搬送された場合には、次のつなぎ先や相談支援を行うというところで連携をとっている。数値的には、医療機関よりいただいているところがある。年間というような具体的な数字ではないが、一度関与した時の資料としましては、大体昨年度の実績としては、40件弱ぐらいの自殺未遂者が市の医療機関の方に搬送されているというような数字としていただいている。

山村委員

昔病院に勤務していたが、何回も未遂を繰り返して死んでしまうというようなことにならないように、しっかり連携して支援していただきたいと思っている。

沼田委員

自殺対策は本当に大変だと思っており、例えば目標自殺率を下げるのは、多分5年ぐらいでどれだけ達成されるか、というようなことではないかと思っている。

この国の自殺総合対策大綱の第1の基本理念の「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指す」ということで、今回、障がい者・高齢者・子ども全てを含めて、の社会作りをするんだという程度のものでつくるということで、自殺という個別性が上回る計画に見えるが、壮大なプランをつくるものだと思っており、県の方では市町が計画をつくられる時に、助言というか、少し協力させていただく。こちらの方も常々考えているが、これまでのものよりさらに包括的な意味合いのあるものかなと思っている。

最後の14ページの自殺対策計画の構成イメージのところは大体、いろいろな計画に対して大綱を踏まえて概ね5カ年で、理念的な部分を示す計画のものと、アクションプランというか行動計画があり、学習支援、施策的に細かい事業では、アクション的に具体的にどんなふうに、例えば庁内体制では、4つのいろいろ大変なことがある。施策の方向に向かっていく部分のところをアクションプラン的に分けるという構想は持っているのか。

アクションプラン的な細かい施策的なものということで、詰めていくような設計図のようなものと想定してよいのか。

北口課長

14ページの方にも書かせていただいたが、第3章に計画の期間ということで大綱を踏まえて概ね5年以内というのは、これは国の方が示している計画のプランということになる。加賀市の方では先程もご紹介したように、地域福祉計画との整合性次期の計画を一体的に計画策定するというので6年設定をしたが、概ね3年で中間評価を行い毎年PDCAサイクルの元、事業の点検等を行って行きたいというふうには考えているので、この計画の構成としては石川県の自殺対策計画の構成を参考にさせていただいており、この第4章の部分で少しアクションプラン的な具体的な事業等が反映されるように今後検討参りたいと考えている。

久藤委員

先程の自殺未遂者の人数について、40人ぐらいと説明されたが、それは時期期間など、何年ぐらいの分析において、40名という数になったのか。

北口課長

これは昨年度1年間での人数であり、これ以上の詳細なことについてはどこまで出してよいのか、難しいところであり、数字のみの紹介にさせていただく。

久藤委員

1年間で40人！市の方では未遂になられた方々への今後の対応について何か考えているのか。

北口課長

県では各医療機関において、こういった未遂者の第2次支援というのは非常に重きを置いて取り組んでいるところであり、今沼田委員が言われたように県のサポートフォローというようなところで、県の方で開発された、「つなぐシート」というような連携システムなんかも使い、医療機関から紹介をいただくような相談ケースもあり、ご自宅に帰られた後は、医療機関、行政、関係団体等という形でサポートを現に取り組んでいる状況があるが、なかなか未然に防ぐというようなところまでには至っていない所があり、今、社会全体でというような所で今回の計画策定が繋がっていけばと考えている。

北口課長

先程の自殺対策の未遂者の数字を約40名と報告させていただいたが、今程再確認により、30名弱29名という数字に訂正させていただく。

2 各分科会における計画の評価及び平成30年度の施策について

久藤委員

健康プランの中で、受診の中に歯医者さんの歯の検診が含まれていないが、そのようなプロジェクトを考えているか。

北口課長

特定検診と併せて、歯周病検診という形で同時に年に3回地区の方で開催している。

久藤委員

わかりました。

山村委員

片山津地区の保育園3園を統合するということについて、例えば両親が勤務しており、おじいちゃんおばあちゃんが歩いて保育園への送り迎えをされる方が結構いらっしゃるが、送迎はどのような交通手段で行うのか。三園統合にあたり、子どもの人数はどれ位で三園を統合するか。

奥村課長

現在の三園合計の4月1日現在のお子さんは84名で大体年度末にかけて一番お子さんの人数が増えます。昨年の3月時点で94名のお子さんが通っておられたという数字である。それから送迎については、現在徒歩で通われる方はほとんどおられない。例えばお布団等の持ち帰りとかがあり、ほとんどの方が自家用車による送迎ということになっている。

山村委員

健幸ポイント事業について、3年、携わらせていただいております、沢山の方が健幸ポイントの事業で景品とかをいただいたが、今年度も保健推進協議会でお願いしたところ、枚数や、貰える景品みたいなものも増やしていただき感謝している。あとは私達保険推進協議会で普及啓発とそして健康に向けて頑張りたいと思うのでまた協力をお願いしたい。

3 その他

上野委員

人間ドックや、特定検診の受診率はどれくらいなのか。
やはり早期発見早期治療が必要であると思っている。そうすることによって健康保険料や、治療のための支出が少なくなる。ただ当然そういう検査を受けると、負担する金額がちょっと上がってくるかもしれないが、長い目で見た場合本人も財政の方も良いという形になってくる。
なるべく人間ドックなど、検診を必ず受けていただきたい。もっと周知していただければと思う。我々民生委員の場合でも自分自身の健康管理家族の健康管理を行っていただくようにしており、そうしないといろいろな活動ができないと常に言っている。市民にもその旨、周知していただければありがたい。

高川部長

人間ドックや特定検診の数字は、次回の時に資料を揃えてお示しをさせていただきたいと思う。

平井部長

審議会の今年の予定は、先程自殺対策計画のところにもあり、1月ごろに第2回目、それから3月ごろに第3回目ということで、今年度、後と2回予定をしており、ご案内させていただく。